

5. 観光（3） グランド・ティートン周辺 （星野）

① 開拓者住居址

モルモン系の開拓者が住んでいたと言う話のある、斎藤光子さんの下調べによると映画「シェーン」の原風景に近い所（Antelope Flats）が残っている、とのことで出掛けた。G・T国立公園南東片隅、ジャクソン-モラン道路に沿った一連の農家複合体。教会と学校が建てられ、ほんの19世紀までに農耕生活が営まれていたそう。 (およそ1910～1930の家屋の写真があり、排水装置システム、納屋などアンデイ・チェンバーズの建築を含む) モルモン系33人、当時の家族の集合写真は気高く気品が感じられる。いま、家屋は外観を残すのみだが広大なこの地G.Teton連山を望むここに立つと、目を閉じなくともオールド・ウエストの開拓史時代が偲べる。(歴史的建物のための観光客とカメラマンのための人気の目的地、バイソンの群れとバックグラウンドにそびえる素晴らしいティートン山脈)。



② スネーク・リバー川下り

アメリカを東西に分けるロッキー山脈の分水嶺はミズリー、ミシシッピー方面とスネーク・リバー方面に分かれる。7月2日、7人でラフティング。2時間一人\$65。これはもう最高。スネーク・リバーで川幅の広い緩やかな流れに乗って、ティートン山脈を眺める至福の一時は気持良すぎてつつい居眠ってしまう失態。

またまた白頭鷺、水鳥を早々と見つけてしまう目利き斉藤幸子さんの活躍。船頭兼ガイドはオールを股に挟んだり、膝で抑えて器用に繰る。間もなく船着場だと先方を見ると橋の上に黒山の人。大きなヘラ鹿が川べりを舞台のワンシカショーの最中でした。

7:45 B. C 発—8:20 駐車場（待合せ）着—9:30 送迎車発—9:48 舟着き場着

10:12 説明とライフジャケットを着け発—11:45 船着場着

=流れが速かったのか乗船時間は93分でした=



③ ミュージアム

帰路につくためジャクソンの街に向かう途中に立ち寄る。写真、絵画、彫金アートなど、アメリカを3倍楽しめるミュージアム。没後50年以上の画家の作品は当時の野生動物が現在と変わらない大自然の中に描かれ、ワイルドで優しい。絵心の無い当方も時間を忘れて引き込まれる。1枚の絵画から100年前を見ると、とてつもなく大きなアメリカを見較べることになった。



④ ジャクソンの街

映画のセットかと思うほどの小さな街。直立のまま右を向くと山、また左を向くと山に突き当たる。このあたり、今は夏の避暑兼観光地、冬はスキーのゲレンデへと一変する。時間一杯までショッピングを楽しんだ後、カウボーイ・バーでまた皆人とシェアのランチ。カウボーイの町らしく黄昏れと共にバンドの演奏、乗馬の鞍のカウンター席で杯を傾けお喋りを楽しむのでしょうか。地下には、よりゴージャスで閑静な部屋がありましたよ。タウンスクエアで最後の夕食、西部銃撃戦の早撃ちショーを観て明朝4:30のモーニングコールで目覚めるようにアンビルモーターに踵を返したのです。



⑤ フォトグラフ

ジーンズの上にレザーのガンマンパンツ、膝上までのブーツ、ベスト、キャップの渋いカップル（50代？）を発見。隠れミーハーの私は丁寧にお願いして一緒に撮らせていただきました。大きい私ですが二人の間で小さく写っていました。



⑥ Signal Mountain

観光ではありませんがベース・キャンプだったマウント・シグナル（2314m）、その名を冠した山からの景色も望みました。B. Cから標高差 300m位でしょうか、一面花が咲き眺望の良さに天下をとった気分になれる山でした。